

2. 正親学区の概要

(1) 市街地の成り立ち

正親学区の校区は、おおよそ北は一条通、南は下長者町通、東は松屋町通、西は千本通に囲まれ、嘉楽小学校の廃校とともに編入した笹山町二丁目と伊勢殿構町を加えた地区となっています。

この地は、西暦 794 年、桓武天皇により計画的に建設された平安京の昔に歴史を留め、千本丸太町にあった朝堂院大極殿を中心に広がる平安宮（大内裏）の地であり、大蔵省や主殿寮などの諸官庁が建っていました。しかし、その後の度重なる火災で焦土と化し、鎌倉時代には一面野原となり、内野と呼ばれるようになりました。

安土桃山時代になると、豊臣秀吉の邸宅「聚楽第」がこの地に造営されました。周辺には諸侯の邸宅が立ち並び、それらの建物や屋敷、井戸などが町名となり、今も区内に多く残っています。

明治 22 年頃の地図をみると、現在の市街地の骨格となる千本通や中立売通、一条通や浄福寺通などの学区内の主要な道も開通しており、浄福寺や智恵光院などの寺社や大きな敷地を有する邸宅等が多くみられます。

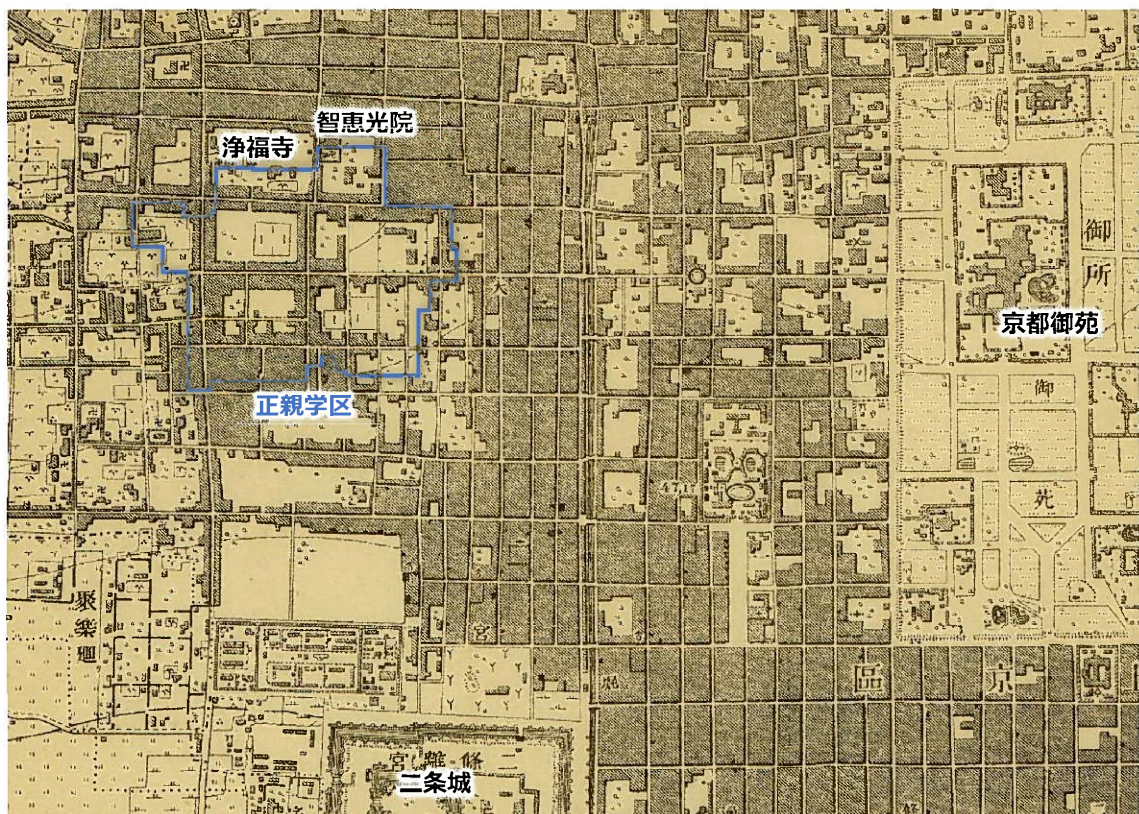


図. 明治 22 年頃の正親学区の様子

(出典：国際日本文化研究センター所蔵地図データベース（資料名：京都、地図番号：002469278）)

大正初期には、千本通の市電の開通により、道路の拡幅等が行われ、現在の正親学区の原型が形成され始め、幹線道路である千本通や中立売通周辺を中心に宅地化が進み、それに伴い、幅員の狭い路地も形成されてきたことが伺えます。

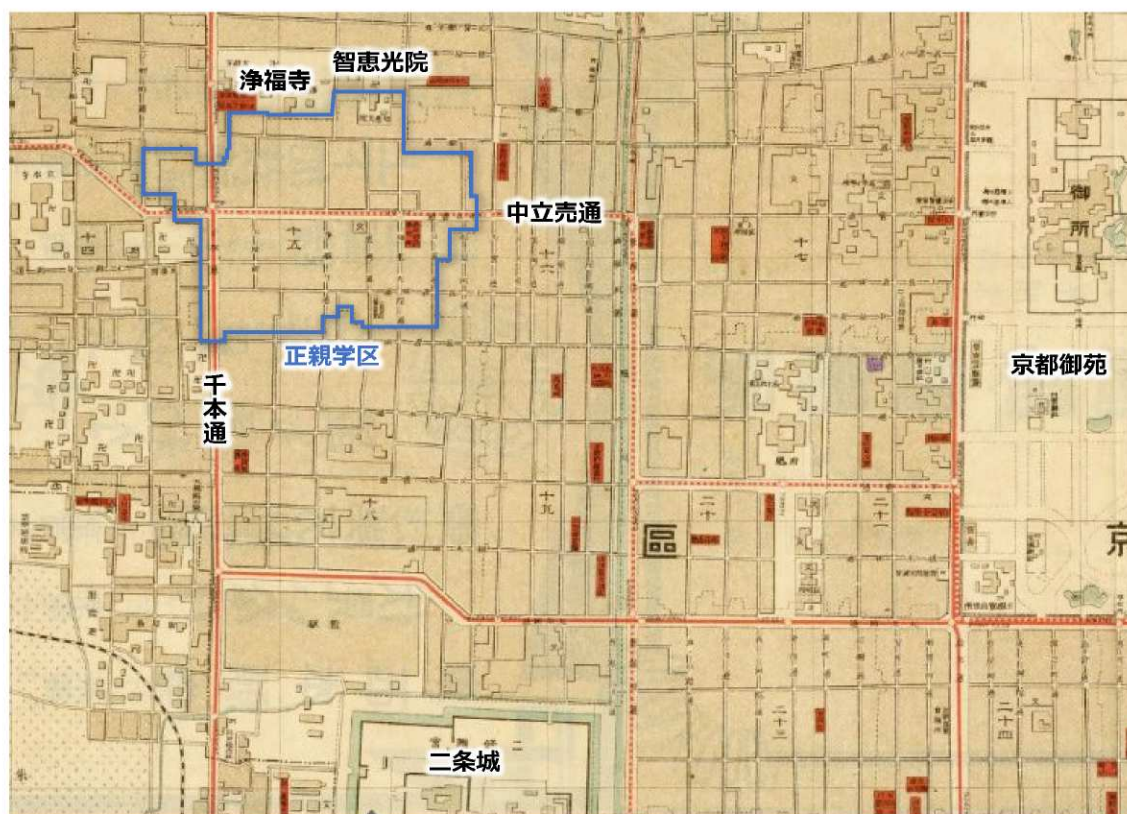


図. 大正2年頃の正親学区の様子

(出典：国際日本文化研究センター所蔵地図データベース（資料名：京都市街全圖、地図番号：002754893）)

その後、市街化が進む中で、智恵光院通が拡幅され、正親学区の骨格となる幹線道路が整備されていきました。

一条通や浄福寺通、上長者町通沿道の地域や、西仲筋町や新白水丸町のような古くから寺社や大きな敷地を有する工場等があった地域では、戦時期に空襲の際の延焼防止を目的とした空地帯（疎開空地）が設けられず、戦前からの路地や木造住宅等が数多く残ったままとなり、現在の東西俵屋本町や西富仲町などのように、古い木造住宅や路地、袋路など集中する地域が形成されています。

一方で、中立売通北側の東西俵屋町南組などで新たな宅地開発が進み、智恵光院通沿道の疎開空地であった山里町や亀木町、須浜町などでは、事業所やマンション官舎などの大規模な建物が開発されていき、今日の正親学区が形成されています。

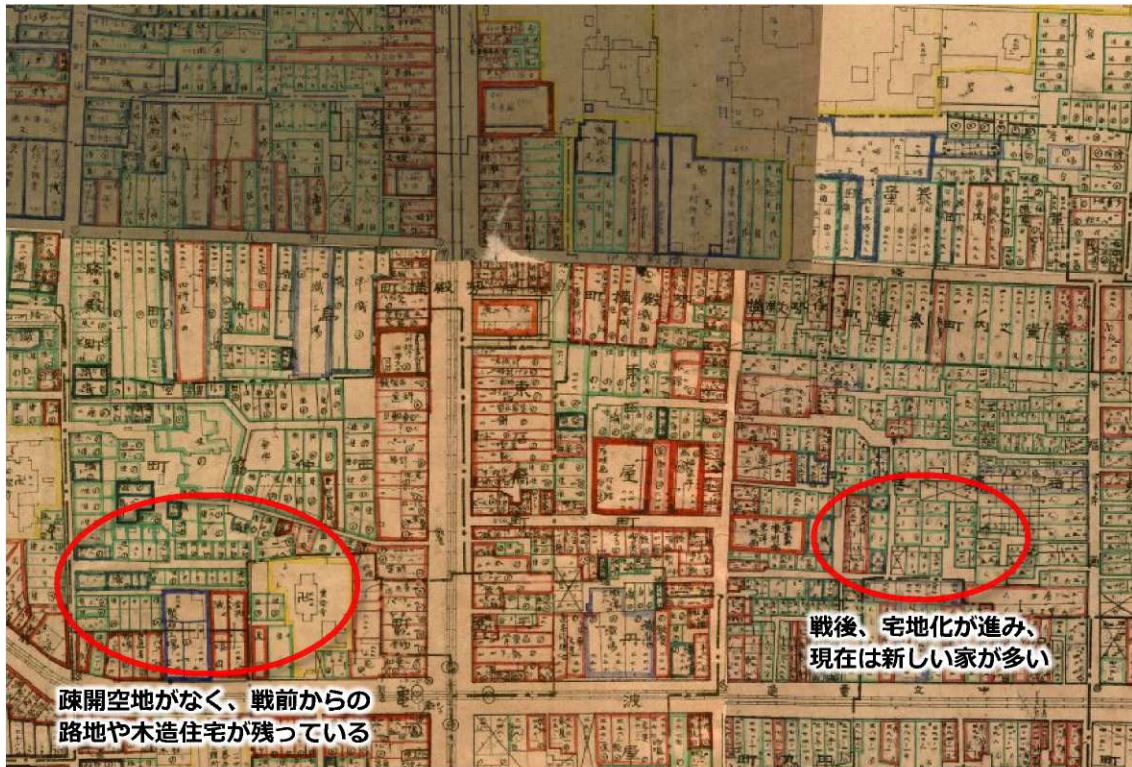


図. 戦前の正親学区の様子（中立売通北側、千本通付近）

（出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館）

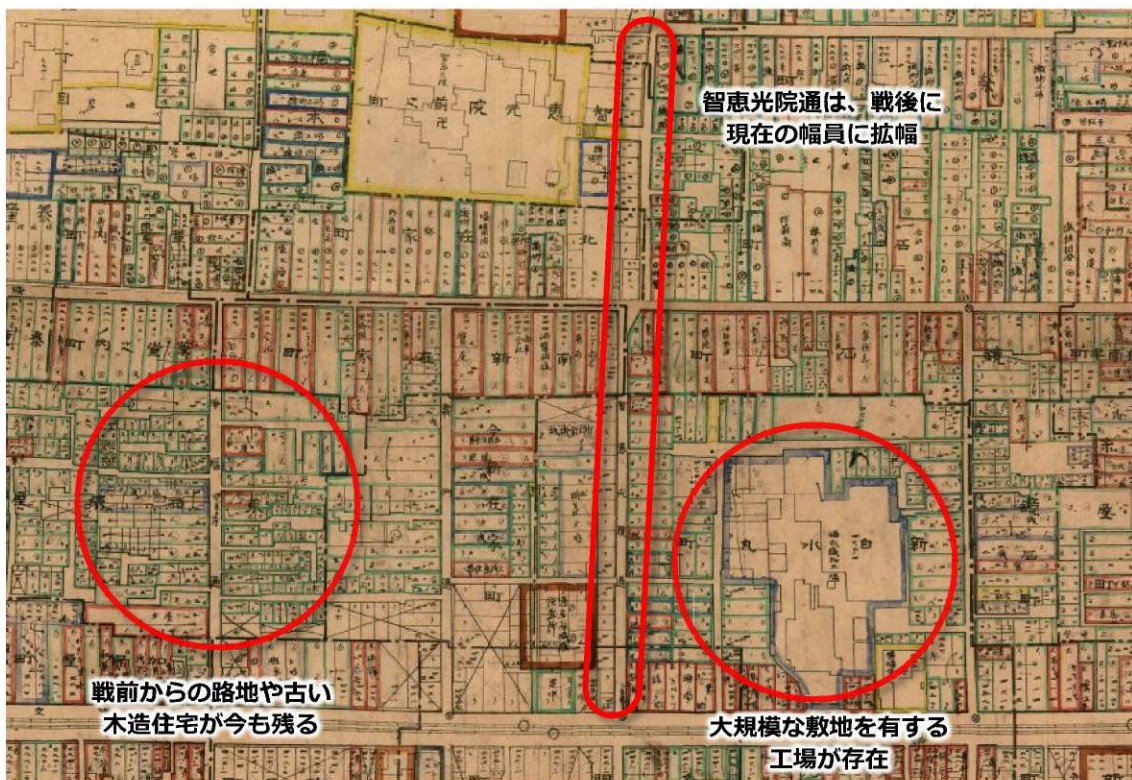


図. 戦前の正親学区の様子（中立売通北側、智恵光院通付近）

（出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館）

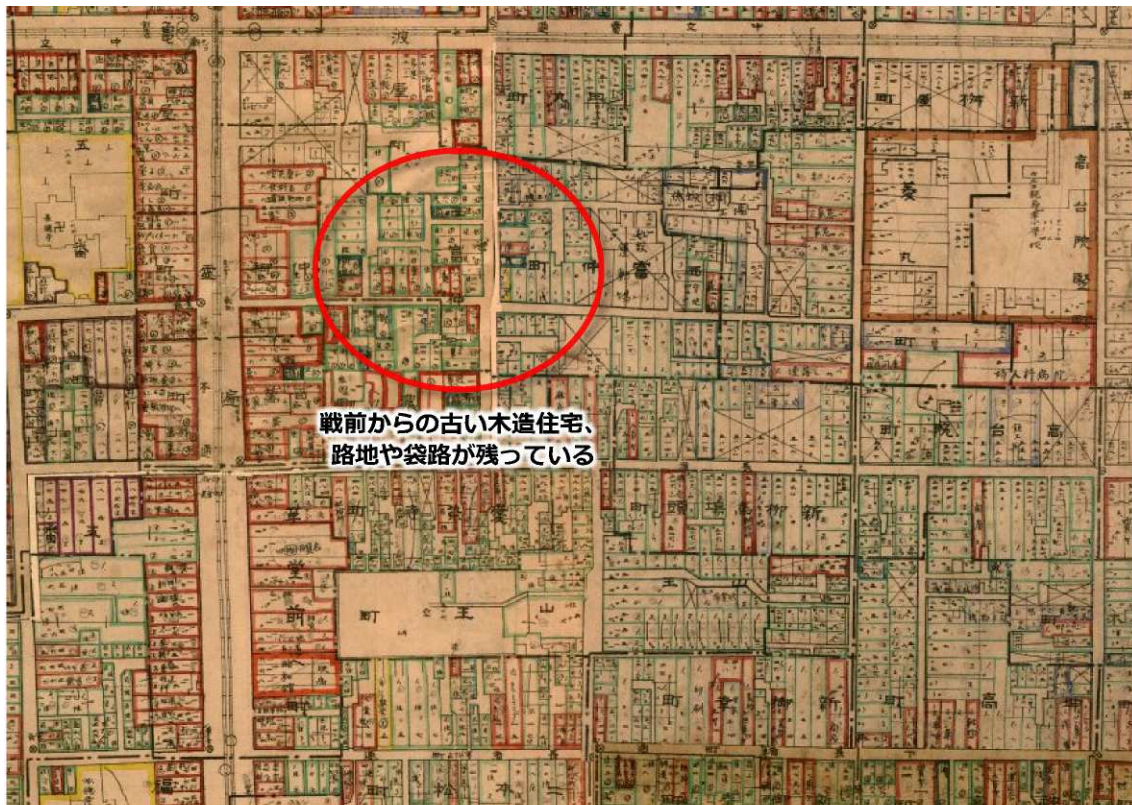


図. 戦前の正親学区の様子（中立売通南側、千本通付近）

（出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館）

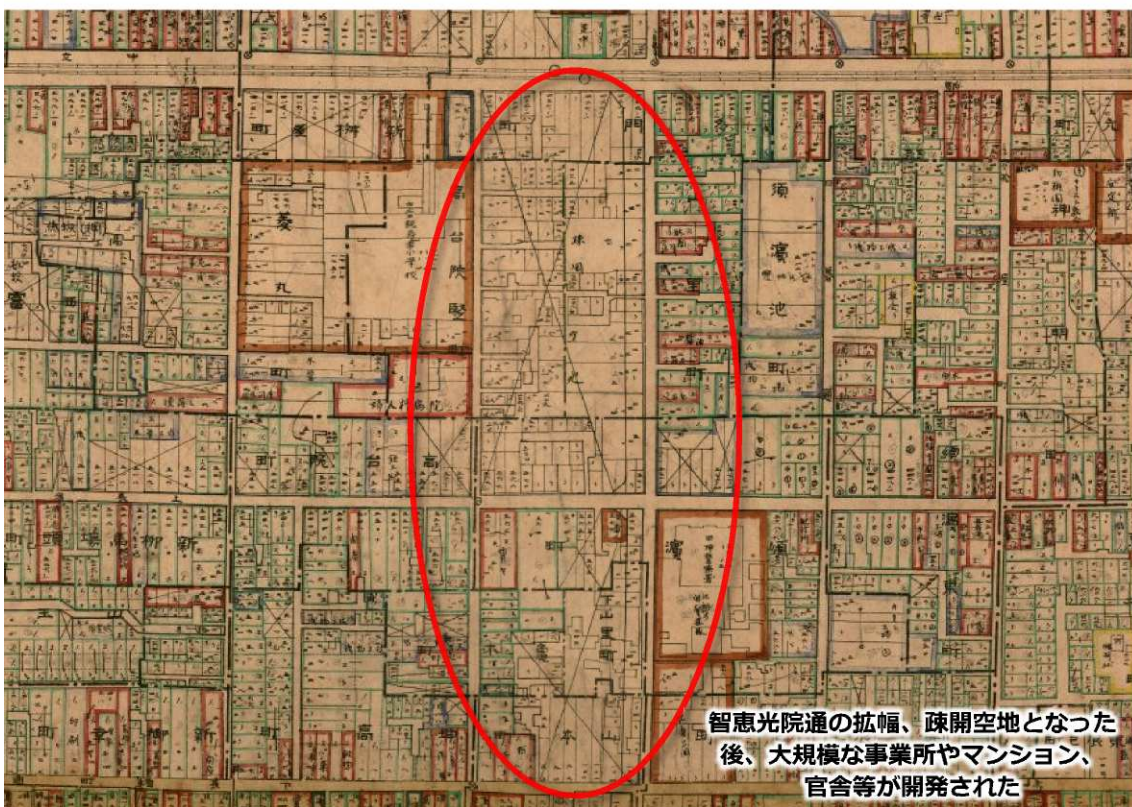


図. 戦前の正親学区の様子（中立売通南側、智恵光院通付近）

（出典：京都市明細図、所蔵：京都府立総合資料館）

(2) 現状と課題

「い え」

現状

- ▶ 中売通や智恵光院通などの幹線道路沿道は、マンションなど大規模な建物が立地していますが、幹線道路の内側を中心に木造住宅が多く残っています。
- ▶ 東西依屋町など、路地が入り組み、建物が密集している場所も見られます。
- ▶ 一条通や上長者町通などでは、京町家が比較的多く残っており、風情ある町並みが形成されています。
- ▶ 古い木造住宅の建物の所有者は高齢者が多く、耐震改修が行われていない住宅も見られます。
- ▶ 空き家やゲストハウスが増加しており、路地の中などでは管理が不十分な空き家も見られます。



課題

- ▶ 地震などの災害が発生した場合、建物が倒壊したり、火が燃え広がるなどの危険性があります。
- ▶ 特に、耐震性の低い昭和 56 年以前の木造住宅が残っている幅員の狭い路地は、建物の倒壊等によって、災害時の避難に影響が出るおそれがあります。
- ▶ 適正な管理や利活用がされず、老朽化した空き家が増加することによって、災害時に建物の倒壊や火災の危険性が高まるだけでなく、防犯や草木の繁茂など周辺の生活環境に悪影響を及ぼすおそれがあります。

住民のみなさんの主なご意見

- ・ 災害時に自宅から逃げ出せるように、無事に家から出られる工夫をする。
- ・ 家具の固定、タンスの上に物を置かないなど、自分で考え、自分で行動することが大事。
- ・ 地震に強い家にする意識を持ち、自宅の耐震診断を受け、自宅を耐震・防火改修する。
- ・ 住宅の壁や屋根など、住宅の外側の防火が大切。
- ・ 建物の耐震・防火改修を呼び掛ける（特に地域の集合場所周辺や主要な道の沿道の建物）。
- ・ 借家が多く、耐震化には所有者の確認や整理が必要。
- ・ 耐震セミナーの開催や耐震助成の PR・回覧など、耐震の取組を町内、学区全体に広げていく。
- ・ 学校で避難の仕方の教育が必要（子どもからお年寄りまで、みんながわかるような教育）。
- ・ 老朽化した家は除却して更地にすることも考える。
- ・ 空き家の把握、情報を共有し、所有者に適正な管理や活用に関する啓発を行う。
- ・ 空き家対策の勉強会、高齢者が集まる場所などで空き家などに関する講座を行う。
- ・ ゲストハウスについては、管理者とコミュニケーションをとり、災害時の対応を確認する。

「み ち」

現状

- ▶学区の中央を横断する中立売通、南北に通過する千本通と智恵光院通、これらを繋ぐ一条通や上長者町通が住民の日常生活を支えています。
- ▶これらの道路の内側では、幅員4m未満の狭い路地や袋路が多く見られます。
- ▶道幅が狭い路地には、バイクや自転車、プランターなどが置かれ、通りにくくなっているところが見られます。
- ▶路地に段差があったり、舗装がガタガタのところも見られます。
- ▶敷地面積が十分ではないなどの理由から建替えが進まずに、結果として道幅が広がらないままになっている路地も見られます。



課題

- ▶災害時に沿道の建物の倒壊や延焼によって、「地域の集合場所」や「避難所」への避難や緊急車両の通行に支障をきたすおそれがあります。
- ▶幅員の狭い路地や袋路では、災害時に建物の倒壊に加えて、乱雑に置かれた物の転倒や路地の段差等によって、災害時の安全な避難に支障をきたすおそれがあります。
- ▶特に幅員の狭い路地や袋路では、建替え等が困難な敷地が多くあります。

住民のみなさんの主なご意見

- ・千本通などの幹線道路、一条通などの幹線道路を補完する道路、仁和寺街道などの災害時の避難の際に重要となる避難経路の沿道建物の耐震化を進める。
- ・千本通に抜ける路地沿いには店舗や古い建物が多く、一人暮らしや高齢者も多いため、うまく耐震化を進められるとよい。
- ・大きい通りに繋がる路地の幅員はしっかりと確保したい。
- ・自宅から「地域の集合場所」、「地域の集合場所」から「避難所」への避難経路の安全性を確認する。
- ・袋路は、緊急避難扉の設置など2方向避難の確保、始端部建物の耐震化・防火対策を進める。
- ・路地の段差等や倒壊しそうなブロック塀を改善する。
- ・個人でも、植木や自転車等の適正管理、駐車・駐輪等に対する声掛けをする。
- ・路地の適正管理について、路地に暮らす住民同士でルールをつくる。
- ・4m未満の箇所は建替え時にセットバックを行い、道路としての整備を進める。

「ま ち」

現状

- ▶学区中央に正親小学校があり、学区南東に辰巳公園、北東に橘公園があります。
- ▶中立売通や千本通などの幹線道路の沿道には、マンションやパチンコ店などの大きな建物が立地しています。
- ▶「地域の集合場所」を知らない人も見られます。
- ▶学区内に井戸が点在していますが、中には使用されていないものや管理が不十分なものもあります。
- ▶浄福寺通に面した東西俵屋町では、建替え等ができない路地が集中しており、老朽化した空き家が多い路地も見られます。



課題

- ▶災害時に一時的な避難ができ、延焼を防止する空間となる広場が少ないため、安全に避難できず、火が燃え広がるおそれがあります。
- ▶「地域の集合場所」を知らない人も見られ、災害時の円滑な避難への影響が不安です。
- ▶学区内には、敷地が狭いなどの理由で建替えができない老朽化した建物も見られることから、災害時に建物の倒壊や延焼による被害が大きくなるおそれがあります。

住民のみなさんの主なご意見

- ・学区界周辺住民の避難も検討する（隣接学区との連携）。
- ・安全な避難場所が近所がないので、安全な避難場所がほしい。
- ・火事による燃え広がりが恐いため、防火対策と合わせて防災ひろばの整備を進める。
- ・スーパードームなどの安全な大型店舗への避難も検討すべき。
- ・お年寄りが多く、小学校が避難所だと遠い。
- ・「地域の集合場所」を再確認・再検討し、住民みんなで共有する。
- ・学区全体で「地域の集合場所」や避難経路に看板を設置する。
- ・安否確認など、「地域の集合場所」に集まってからの行動を確認する。
- ・町内会に入っていない人は「地域の集合場所」を知らない。マンション住民には、管理会社等がルールを作って対応してほしい。
- ・井戸の使い道を考え、使っていない井戸には蓋をする（適正管理をする）。
- ・災害時に使える井戸を確認し、協力を呼び掛ける。
- ・高齢者への呼び掛け用の拡声器や防災ベルなどを町内で整備し、メンテナンスも怠らない。
- ・路地を大切にしたい保全・再生を検討していきたい。

「コミュニティ」

現状

- ▶高齢化が進み、一人暮らしの高齢者が多くなっています。
- ▶地域で集まる機会が減り、マンションや空き家の増加もあって、地域の住民同士の交流が少なくなっています。
- ▶マンションなどでは町内会に加入しない世帯が見られるなど、地域の中で日常的なコミュニケーションがとりにくくなっています。
- ▶スーパーなどの大型店舗、商店街、お寺が立地しています。
- ▶防災訓練などの取組に新たな方が参加されることが少なくなっています。



課題

- ▶高齢者が多くっており、災害時の安否確認や安全な避難誘導等の体制が心配されます。
- ▶地域のつながりが弱くなることで、地域の防災力が低下したり、今後の防災に関する継続した取組に支障をきたすおそれがあります。
- ▶町内会に加入していない世帯が多くなっており、災害時の安否確認や緊急物資の提供等に支障をきたすおそれがあります。
- ▶学区全体で防災まちづくりの取組を継続していく体制や仕組みを整える必要があります。

住民のみなさんの主なご意見

- ・日頃から防災意識を持ち、防災の取組に関心を持ってもらえるように呼び掛ける。
- ・高齢者、一人暮らし高齢者の把握と見守り、安否確認のためのルールや体制を整える。
- ・町内会でそれぞれの持つ知識、経験（阪神・淡路大震災の経験等）を伝え、情報交換する場を設ける（情報等の引継ぎもしっかりと行う）。
- ・町内の高齢世帯、避難経路をみんなが把握しておくべき。また、高齢者の避難の安全性、避難所での生活の質も考える。
- ・近隣の家の人や防火バケツの場所、避難経路について把握しておく。
- ・防災訓練等をして参加する人が限られている。
- ・日々の声掛け、コミュニケーションを大事にし、隣接する町内とも常時から交流する。
- ・飲食店と一般住宅の交流があると良い。
- ・町内会への加入を促す情報発信などを、京都市からも継続的に行ってほしい。
- ・地藏盆や古紙回収などでの情報交換や、ママ友グループの活動との連携などができると良い。
- ・災害時の協力について、近隣の店舗（スーパーやコンビニなど）と協定を結ぶ。

(3) 市街地の特性図（軸とエリアの設定）

軸

市の広域的な幹線道路

（千本通、中立売通、智恵光院通）

- ▶ 京都市全体において、災害時の救援活動や物資輸送を支える重要な道路

学区の防災上重要な道路

（一条通、浄福寺通、上長者町通）

- ▶ 市の広域的な幹線道路を補完し、災害時に住民の避難を支える学区内の防災上重要な道路

避難を支える大きな道路につながる道

（土屋町通、仁和寺街道、裏門通、日暮通）

- ▶ 学区内の各町内の日常生活を支え、市の広域的な幹線道路や防災上重要な道路への避難経路となる道

エリア

延長の長い通り抜けの路地が多いエリア

- ・ 中立売通の北側エリア。広域的な幹線道路である千本通や智恵光院通、住民の日常生活を支える一条通や浄福寺通が通過している

- ◆ 延長の長い路地が多く、幅の狭い道や袋路もみられる。
- ◆ 建替えによりセットバック（道路後退）している箇所もあるが、段差があるなど、道路状に整備されていないところもある。
- ◆ 一条通や裏門通沿いは、マンション等に建替わり、町並みが変化しているところもみられるが、京町家など京都らしい町並みが残っているところもある。
- ◆ 空き家は比較的小さい。
- ◆ 建物が密集し、避難や延焼防止に役立つ広場が少ない。

幅の狭い袋路が集中するエリア

- ・ 浄福寺通に面して、東西に幅の狭い袋路や建物が密集している

- ◆ 幅の狭い袋路が集中しており、段差や舗装が未整備のところもみられる。
- ◆ 再建築できない敷地が多く、老朽化した空き家が多い。
- ◆ トンネル路地や京町家などの京都らしい町並みが比較的残っている。
- ◆ 建物が密集し、避難や延焼防止に役立つ広場が少ない。

路地が少なく、幅の広い道路が通過するエリア

- ・ 避難所である正親小学校があり、中立売通などの幹線道路や、上長者町通や裏門通など幅員4m以上の道路が通過している

- ◆ 智恵光院通沿いは建替えが進んでいるが、延長の短い袋路がみられる。
- ◆ 裏門通沿いは建替えが進み、新しい建物が比較的多い。
- ◆ 上長者町通沿いは、古い木造の建物が比較的に残っている。
- ◆ 空き家は比較的小さい。
- ◆ 隣接学区との境界に辰巳公園がある。

延長の短い袋路が集中するエリア

- ・ 千本通と中立売通、浄福寺通の内側で、上長者町通、土屋町通、仁和寺街道が通過している

- ◆ 延長の短い袋路が多く、幅員の狭い袋路もみられる。（再建築ができない敷地が多い）
- ◆ 上長者町通沿いでは、京町家が比較的に残っている。
- ◆ 古い木造の建物が比較的多い。
- ◆ 空き家が多く、中には老朽化したものもみられる。

凡 例	
	幅員4.0m以上の道路
	幅員1.8m以上4.0m未満の道路
	幅員1.8m未満の道
	袋路(突き当たりが建物)
	袋路(突き当たりが塀・柵等)
	袋路(突き当たりがドア)
	トンネル路地
	公園
	公共公益施設
	寺社
	学区界

学区全体の特性

- ◆ 千本通や中立売通などの市の広域的な幹線道路沿いでは、マンションや店舗、パチンコ店、事業所など、大規模な建物が比較的多い。
- ◆ 空き家が増加し、老朽化したものもみられる。
- ◆ 幅の狭い路地には、自転車などが置かれ、通りにくくなっているところもみられる。
- ◆ 使用されず、適正に管理されていない井戸がある。
- ◆ 避難場所となる公園や広場がない（辰巳公園は学区南端の一部）。